

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310103368	設置等組織名	環境イノベーション学部環境イノベーション学科
大学名	東洋大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京都	事業計画名	環境イノベーション学部設置計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和5年11月まで アカデミックプランの戦略整理（DP・CP・AP整理、カリキュラムマップ整理、志願者ニーズ・人材ニーズの予備調査等） （川越キャンパス将来構想委員会にて）	1-① 令和5年11月まで アカデミックプランの戦略整理（DP・CP・AP整理、カリキュラムマップ整理、志願者ニーズ・人材ニーズの予備調査等） （川越キャンパス将来構想委員会にて）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。	
	1-② 令和5年11月から アカデミックプランの詳細整理（カリキュラムの確定、教員配置決定→募集、外部機関と連携した教育システムの構築、志願者ニーズ・人材ニーズの詳細調査等）（新学部設置準備委員会にて）	1-② 令和5年11月から アカデミックプランの詳細整理（カリキュラムの確定、教員配置決定→募集、外部機関と連携した教育システムの構築、志願者ニーズ・人材ニーズの詳細調査等）（新学部設置準備委員会にて）			
	1-③ 令和5年11月から 新棟（ゼロ・カーボン（カーボンストック・ZEB仕様））建設等の教育研究環境の詳細整理 1-④ 令和7年11月 新学部設置の事前相談提出	1-③ 令和5年11月から 新棟（ゼロ・カーボン（カーボンストック・ZEB仕様））建設等の教育研究環境の詳細整理	○年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ2 を閉じ	2-① 令和6年4月から 新棟基本設計→詳細設計 2-② 令和7年10月から 施工（令和8年12月竣工予定）		○年度自己評価	リストから選択してください。	
認可申請又は届出		令和8年4月 環境イノベーション学部環境イノベーション学科 学科の設置届出予定			
フェーズ1 を閉じ			○年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ2	2-③ 令和7年10月から 施工 2-④ 令和8年12月 竣工 2-⑤ 令和9年1月から 設備備品の搬入・搬入付け		○年度自己評価	リストから選択してください。	
開設又は定員増		令和9年4月 環境イノベーション学部環境イノベーション学科開設予定（入学定員140名、工学・理学関係）			
フェーズ2 を閉じ			○年度自己評価	リストから選択してください。	
フェーズ3	3-① 令和9年4月から 新棟（ゼロ・カーボン（カーボンストック・ZEB仕様））の運用開始（測定開始） 3-② 令和10年4月から 外部機関との連携等によるPBL開始 3-③ 令和10年10月から 留学生の就職支援開始		○年度自己評価	リストから選択してください。	
			○年度自己評価	リストから選択してください。	
			○年度自己評価	リストから選択してください。	
定員減又は学部等の廃止		令和8年4月 理工学部100名、第2部文学部10名、第2部経済学部20名、第2部社会学部10名減員に係る届出予定			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東洋大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り込む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東洋大学
-------------	-------	-----	------

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でよいこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- A：連携を通じた教育体制の整備と実施（連携開設科目等に限らない）

■ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

■ チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

■ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）
- | 申請時の計画 | 取組実績、進捗状況 | 課題（理由）とその対応 |
|---|--|-------------|
| 産官学連携のパートナーとして計画している国立環境研究所、埼玉県環境科学国際センター等研究機関、（株）大林組、戸田建設（株）等一般企業、埼玉県環境部等行政機関などの職員およびサイエンスライター等を外部講師として招聘し、地域や企業が抱える実際の環境・エネルギー問題について、学生を中心としたワークショップにより課題解決（課題発見）を図ることを目的とした授業科目を複数開講する。また、学部2年次3年次の主に夏季休暇を利用したインターンシップ、地域連携実習を授業科目とし、行政や企業等の実態を踏まえたPBL学習にも取り組む。上記、ワークショップに関しては、過去に実績のある近隣の芝浦工業大学、東京電機大学等と連携し、共同で実施することも想定している。また、チュロンコン大学（タイ）、カメルーン大学（イタリヤ）、ストラスブール大学（フランス）等と協定を既に締結し、環境配慮や防災配慮を踏まえた交換留学プログラムを整備しており、それらの連携を強化していく予定である。 | ・教育研究に関する産学連携の可能性について、2023年12月より（株）大林組および戸田建設（株）、2024年1月より埼玉県環境部との協議を開始した。外部講師によるビジネス・行政現場の最先施事例を交えた講義の実施や、実社会の課題を題材にしたインターンシップやPBLの展開、さらには地域コミュニティを巻き込んだ実践型プロジェクトなど、多様なプログラムの展開について継続的に検討することを計画している。
・インターンシップ関係科目としては、1年次配当科目に「実地研修Ⅰ/Ⅱ」、3年次配当科目に「インターンシップ」を開講する予定である。実現場における環境課題に対する解決策や実装に向けた合意形成など、それぞれ企業や行政の実地にて見学・実習等を踏まえた学習の展開を計画している。
・また、実践型科目においては近隣大学と連携した共同ワークショップ開催のほか、海外協定校との連携強化を図り、学内外の学生を交えたプログラム整備について協議を進めている。 | |
- B：多様な入学者の確保に向けた取組

■ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

■ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

■ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

■ チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）

■ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
周辺地域の高等学校等への説明会、オープンキャンパス等で多様な入学者選抜方法について説明を行う。入学者選抜における一般選抜では、共通テスト利用、理数系3科目、国数英3科目等多様な入試科目を設定する。また、総合型選抜（AO型・自己推薦）、学校推薦型選抜の他、留学生日留試利用枠・社会人特別枠（学校教員の再研修を含む）を拡充すると共に、大学入学前の段階における対象者への研究・学習指導等を通じてこれらの受験率を高める。女子学生の確保に向けては、女子高との連携を強化し、協定校や出張模擬講義の拡大を図る他、現在、全学プロジェクトにおいて、理系女子学生増加に向けた取り組みを立案している。また埼玉県内の武蔵越生高校他10校と高大連携プログラム、本学附属高校（京北・牛久・姫路）・協定校（麹町学園女子等）への模擬講義・科学講座、川越市内小中学校での大学生による学習ボランティア等を実施しており、これらの連携を強化していく計画である。	・継続的に検討、協議を進めてきたが「中核」内容について、学内における設置準備委員会や学内外の有識者から意見を聴取し、教育効果をより向上させるべく、多角的に精査している状況である。今後、設定したアドミッションポリシーを即しながら申請時の計画内容に基づいた多様な入学者選抜方式の設定や、女子学生の確保に向けた各校との連携強化に関する具体的な検討をカリキュラム内容と連動させながら順次進めることを計画している。 ・また、地域の学校や本学附属学校への模擬講義、科学講座など既存学部にて実績のあるプログラムでは、デジタル・グリーンに関連したプロジェクトや講演会などの拡張について具体的な検討を進めている。	

大学名	東洋大学
-----	------

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	東洋大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	7206	7375																	
		入学者数	人	7615	7895																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	5																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	7,206	7,375																	
		入学者数(B)	人	7,620	7,895																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.06	1.07																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	28924	28993																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	30153	30757																	
		編入学者数	人	70	63																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.04	1.06																	

4.外部資金の状況（全学）

年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																		
外部資金獲得額	千円	544,225	529,283	695,456	629,675	593,728	783,145												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得 額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の 平均）(E)	千円	589,209
本事業による助成金の額(F)	千円	1,380,500
ペース3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	623,722

特記事項

収容定員等のうち編入学定員0人とは、「若干名」を意味しています。なお、編入学試験を実施しているすべての学部学科に該当します。
--